女仙

田中貢太郎

青空文庫

市ケ谷の自証院の惣墓の中に、西応従徳と云う法名を彫った墓がある。それは西応房と云う道心坊主の墓で、墓の主の西応房は、素養などはすこしもなかったが、殊勝な念仏行者で、生涯人の悪を云わず、他人の罪を被せられても弁解せず、それで咎められる事でもあるとあやまり入り、それが後になって明白になっても、別に喜びもしないで、そうであったかなあと云ってすましていた。往生したのは天保十一年×月十三日で、其の前日の十二日には弥陀如来の来迎を拝したと云われている。

其の西応房は尾州中島郡一の宮の生れであったが、猟が非常に好きで、そのために飛騨の国へ往って猟師を渡世にしていた。

某時木曾の御岳の麓へ往って、山の中で一夜を明し、朝の帰り猪を打つつもりで、待ち受けていると、前方の篠竹がざわざわ揺れだした。西応房の猟師は、さては猪か熊か、とにかく獲物ござんなれと、猟銃を持ちなおして獲物の出て来るのを待っていた。と出て来たのは十六七の綺麗な少女であった。おや人間であったか、それにしてもこんな深山の夜明けに、少女などが平気で来られるものでない。これはどうしても変化の者に相違ない。しっかりしていないと其の餌食になる。機先を制して打ち殺せと、用意の錬り玉と云うのを手早く込めなおして、著弾距離になるのを待っていたが、少女はすこしも恐れるような気ぶりも見せず、平然として前へ来た。

「頼みたい事があってまいったから、どうかそんな物を引っこめてもらいたい。打とうと思ったところで、鉄砲などの的るような者でもない、それに一所懸命に狙っておっては、わたしの云う事が判らないであろう」

少女の口辺には微笑が浮んでいた。西応房の猟師は猟銃を控えた。

「わたしは飯田在の、某村の何某の娘であるが、今から十三年前、ちょうど十六の七月に、近くの川へ洗濯に往っておって、遁れられない因縁から、そのまま山に入って仙人になったが、両親はそれと知らないで、其の日を命日にして、供養してくれるのはありがたいが、仙界ではそれが障碍になって、修行の邪魔になる。それに来年は、一級仙格が進んで、鈴鹿の神になる事になっておるが、両親は今年が十三回忌に当るから、此の七月にまた法要をしてくれようとしておるが、それでは到底鈴鹿の神になる事ができぬ。それで大儀ながらわたしの家へ往って、以来仏事供養は、無用にしてもらうよう伝えてもらいたい」

西応房の猟師は女の詞を疑わなかった。彼は唯唯として其の命に従った。すると、

「その方は、自分一人の渡世のために、数知れぬ鳥や獣の命を奪っておるが、それでは罪業を増すばかりである。渡世は猟師に限るまい、何か他の事をするがよい」

西応房の猟師は家へも帰らず、其の足で飯田在へ往って、其の両親と云う者に逢って、仙女の云った事を確めてみると、寸分の相違がなかった。西応房の猟師は、事の不思議さに恐れをなすとともに、猟師の罪業の深い事も覚って、名古屋へ出て武家奉公などをしていたが、気がすまないので、江戸へ出て自証院の道心坊となったのであった。

青空文庫情報

底本：「怪奇・伝奇時代小説選集3　新怪談集」春陽文庫、春陽堂書店
　　1999（平成11）年12月20日第1刷発行
底本の親本：「新怪談集　物語篇」改造社
　　1938（昭和13）年
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：Hiroshi_O
校正：noriko saito
2004年8月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

女仙

田中貢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/